

## 「連休中の雹」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

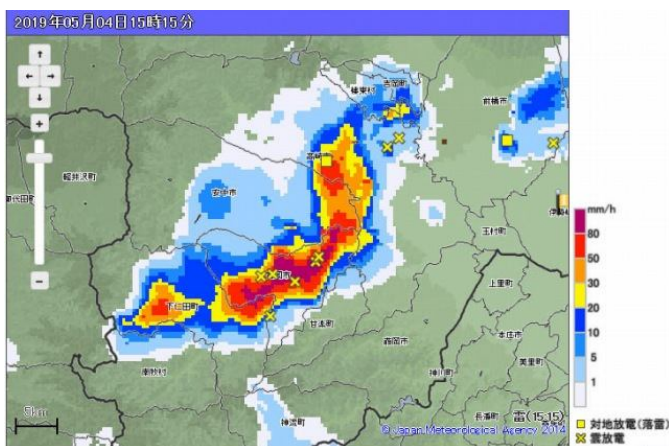
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この連休後半は比較的天気良かったが、最後の2日間は、寒冷前線の通過などの影響で「大気の状態が不安定」だった。多摩地区でも雹が降ったそうだ。



私の山荘に泊まりに来ていた友人一家が、4日に東京に帰る途中、富岡製糸場に寄ったのだが、そこで足止めに遭った。激しい雹が降ったのだ。友人はその時の写真を送ってくれた。ぐんまちゃんもびっくりだ。



左下はその時の雨量解析である。富岡市を中心に猛烈な降雨量になっている。図の中の **X** 印は落雷を意味し、富岡市が優勢な積乱雲の根(真下)に位置していたことがわかる。友人一家は、駐車場の車に戻れず、お土産物屋さんに避難していたそうだ。



LINEで送ってもらった写真を見ると、路面に落ちた雹粒のだいたいの大きさや構造がわかる。路面の敷石の大きさは、短辺が8cmくらいなので、雹粒の直径はおよそ5mm~1cmと推定できる。雹としては小さなものに属する。



雹は、積乱雲中の上昇気流と下降気流や重力で、何度も上下しながら成長する。上の写真はそうにしてできた雹粒で、成長の履歴が同心円の構造となっているのが特徴だ。

しかし、今回富岡市に降った雹は、全体に小さく小さい。恐らく積乱雲の上昇気流がそれほど強くなく、成長する前に降ってきたのだろう。しかし、雨粒と雹粒が上空の冷たい気塊を地面向かって引き落とす「ダウンバースト」が起きていたはずだ。冷たい突風で、かなり寒かったにちがいない。